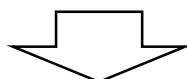
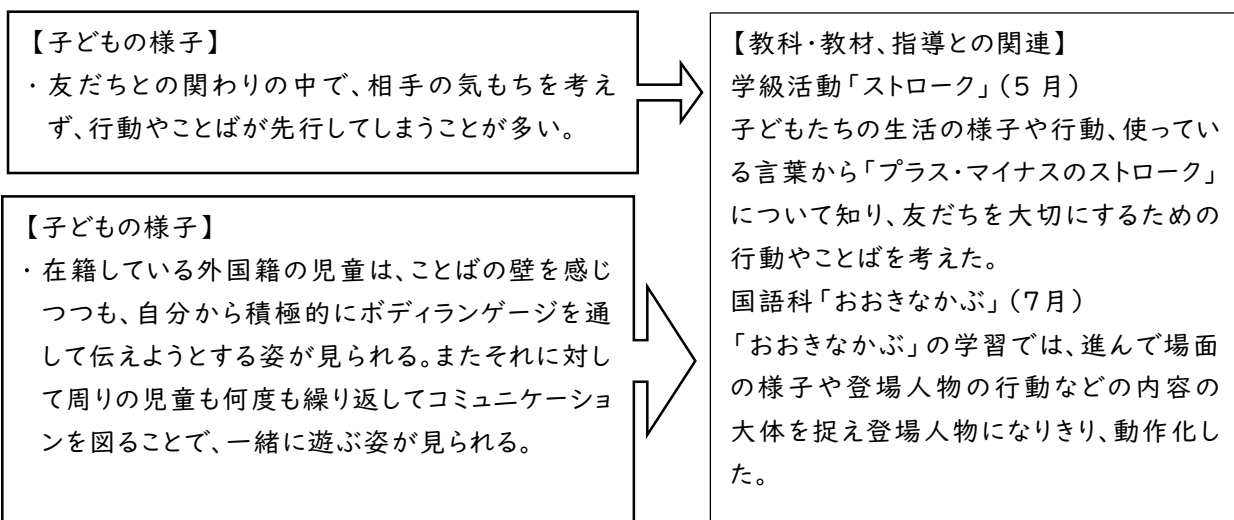


第1学年 ESD(国語・生活・道徳・学級活動) 学習指導案

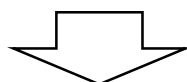
1. 学習者: 大阪市立歌島小学校 1年1組 26名		2. 授業者: 三笠 日向	
3. 主題名: 新「ももたろう」ものがたり			
4. 学習領域: 文化の多様性 ことばとコミュニケーション 世界の人々とのつながり 地球的課題			
5. 目標: 自分と友だちとの考え方のちがいに気づき、相手の思いや考えをたいせつにするとともに、予断をもって判断するのではなく、互いをもっと理解するために積極的に関わることができる。			
6. 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○ いろいろな「おに」がいることを理解し、「ももたろう」の鬼にも背景があることに気づいている。	○ 物語を再構成し、自分の思いや願いを込めて表現している。	○ 仲間や友だちの話を受けとめたり、自分から話しかけたりしようとする思いをもっている。

7. 学習を進めるにあたって



新「ももたろう」ものがたり

- ・ 「ももたろう」などの昔話を読んだり、読み聞かせを聞いたりする。
- ・ いろいろな「おに」がいることに気づき、桃太郎の行動・ことばを再考する。
- ・ 「新『ももたろう』ものがたり」を聞き、平和的解決のための行動や言葉がけについて考える。



【予想される子どもの変容】

- ・ 相手の立場や気持ちを考えて、行動することができるようになる。
- ・ 相手のことを決めつけしないで、もっと理解しようと積極的に関わろうとする。
- ・ 友だちや仲間の意見に興味をもち、聞くことができる。

8. 活動計画: 全9時間 (国語・生活・道徳・学級活動)

1次 (国3)

出会いのステージ: こんにちは「ももたろう」

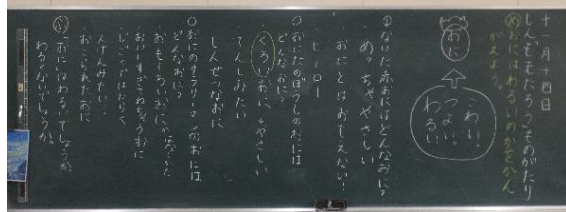
ねらい: 「ももたろう」の鬼に着目し、いろいろな「おに」がいることに気づく。

学習活動:

- ① 15の昔話の1場面を集めた挿絵から、どんな昔話があるか想起する。
- ② 「ももたろう」を読んで、鬼のイメージを話し合う。



- ③ 「泣いた赤おに」や「おにたのぼうし」などの本を読み、いろいろな「おに」について考える。



指導のポイント:

- ・ さまざまな昔話があることに気づき、昔話を知りたいという意欲をもてるようにする。
- ・ 登場人物になりきり、声に出したり、動作化したりして桃太郎や村人の心情から鬼のイメージをもてるようにする。
- ・ 人々を襲うような鬼ではない「おに」が登場人物で出てくるお話を取り上げることを通して、「鬼＝悪者」が一面的な捉えであることに気づくようにする。



2次 (学2)

追究のステージ: これでいいの? 「ももたろう」

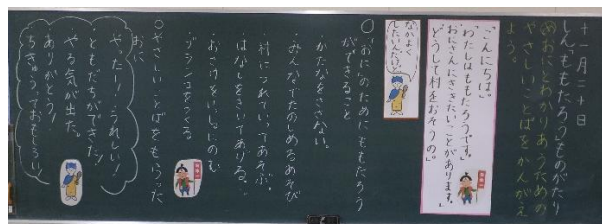
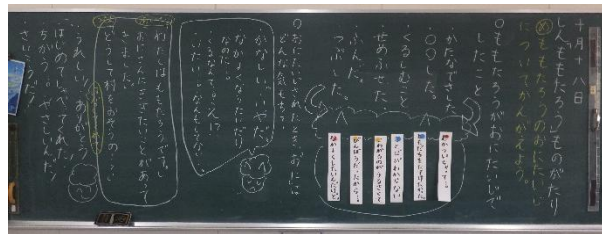
ねらい: 「ももたろう」の鬼の背景を踏まえて、桃太郎の行動・言葉について再考することができる。

学習活動:

- ① 「ももたろう」に出てきた鬼が、どうしてわるいことをしたのかについて話し合う。



- ②③ 「おに」と桃太郎たちの間にある問題を解決するためにどうすればよいのかを考える。



指導のポイント:

- ・ 前時で取り上げたいろいろな鬼について振り返り、鬼もなにか理由があるのではないかと気づくようにする。
- ・ 鬼と出会った桃太郎の行動や言葉について考え、問題点に気づくことができるようにする。
- ・ ロールプレイを通して、「おに」の気持ちに気づき、言葉がけの仕方で行動が変わることを理解できるようにする。



3次(生2)

交流のステージ: これが みんなの「ももたろう」

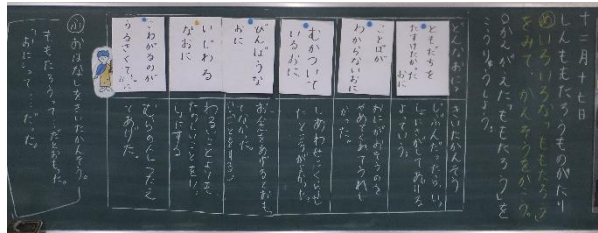
ねらい: グループで考えた「新『ももたろう』ものがたり」を伝えあうことを通して、それぞれの考え方のちがいがあことに気づく。

学習活動:

- ① グループで「新『ももたろう』ものがたり」を考える。



- ② グループで考えた「新『ももたろう』ものがたり」を発表し合う。



指導のポイント:

- ・ 前時をもとにして、いろいろな「おに」に対してどんな関わり方ができるか考えられるようにする。



- ・ 友だちの話を聞き、自分とはちがう考え方がたくさんあることに気づくことができるようにする。



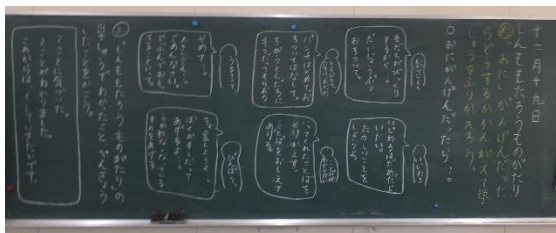
4次(道1)

自立のステージ: なりたい「ももたろう」

ねらい: これまでの学習を振り返り、友だちとよりよい関係をつくり実生活に生かそうとする。

学習活動:

- ① これまでの学習を振り返り、これからの自分自身の生活に活かせることを考える。



指導のポイント:

- ・ 発表を見た人たちのコメントから、自分の生活を振り返り、相手のことを決めつけて物事をみていないかを考えられるようにする。
- ・ 実際の場面を取り上げ、学習したことふまえてどう行動するかを考えられるようにする。

10. 成果と課題

成果

○相手の背景を考えようとする姿勢が育った。

今まで「おに」がわるいと決めつけていたことに気づき、「じゃあなんでそうなっているの。」「おにってなんでそんなことをしたの?」と「おに」が抱えている背景について疑問を持ったり、知ろうとしたりしていた。アセスメントシートの問1(遊びを断られた場面)では、事前には「きらい」「うざい」「もうあそばない」など、即時的で断絶的な反応が多かった。しかし事後には、「なんであそばないの」「どうしたの」など、相手の理由を尋ねる記述が複数の児童に見られた。また、問3(遊ぶ約束を断られた場面)でも、「わけをはなして」「なんでそんなこというの」など、相手の事情を知ろうとする言葉が増加した。これらの変化は、単元で扱った「おに」の背景を考えることや対話的な関わり方を考えることが、児童の実際の言葉に反映されるようになったと考える。

○自分の気持ちを伝えることで相手に寄り添おうとしていた。

「おに」のことを知るために最初に何をしたらよいかと問うと、「自己紹介」「挨拶」「質問」が出てきた。児童らとともにセリフとして言語化し、「こんにちは。私はももたろうです。どうして村を襲うの?」とまとめた。さらに児童らは「でもパンチとかは悲しいな。」「『おに』さんのこともっと知りたい。」「おに」の行動に対する自分の気持ちを伝えていた。

アセスメントシート問1・問3では、事前には「だまる」「は?」など、気持ちを表現しない、あるいは攻撃的な反応が多かった。しかし事後には、「かなしい」「いたい」「わるいことしたかな…」など、自分の感情を言葉で表す記述が増えた。これは、単元を通して「気持ちを言葉にする」場面を繰り返し設定し相手に寄り添っていくことに価値を見出し、児童の感情に関する言葉の使用を促したと考える。

○関係を断つのではなく、調整しようとする言葉が増えた。

「おに」の背景を知ったことで、単に否定するのではなく、「一緒に探してあげるよ。」「お酒飲もうよ。」「言葉を教えてあげる。」など「おに」と一緒に解決するための行動をとったり、言葉をかけたりする姿がみられた。アセスメントシート問2(教科書を貸す場面)では、事前には「いやだ」「わり」「めんどう」などの拒否的な言葉が多かったが、事後には「いいよ。でもあしたは持ってきてね」「先生に言ってからね」「メモしたらいいやん」など、条件付きの受容や提案が増えた。また問3でも、「じゃあまたあそぶときに」「ほかの子とあそぶから」など、関係を維持しながら折り合いをつけようとする記述が見られた。これらは、この単元の学習で児童が「平和的な関係調整」の力を育てたことを示していると考えられる。

課題

●鬼の背景理解が浅く、対話が深まらなかった。

鬼の事情や立場を十分に設定できていなかったため、子ども同士の対話が表面的なやり取りにとどまった。背景が曖昧だと「どうして?」に答えられず、思考の深まりが生まれにくい。事前に背景を共有する工夫が必要である。さらに背景を深めるアプローチが少なかったがゆえに、アセスメントシート問1・問3では、事後でも「なんでやねん」「いやだ」「うざい」などの記述が残る児童もいた。背景を考える力には個人差が大きく、継続的な支援が必要である。

●ロールプレイの目的が曖昧で、思考を広げる活動になっていなかった。

ロールプレイが「発表」で終わってしまい、対話を通して考えを広げたり揺さぶったりする機能が十分に果たせなかった。活動の目的と評価の視点を明確にすることで、思考を深める学習に転換できると考えられる。

●1年生の発達段階に合った対話の設計が必要だった。

「ももたろう」「おに」「村の人」など複数の視点が混在し、1年生の児童にとっては難しいものとなってしまった。視点を2つに絞るか、1つ1つの視点を見る場面によって切り替える必要がある。

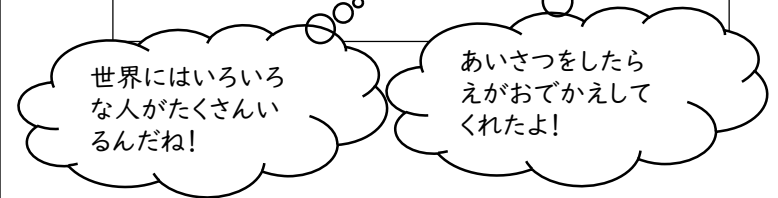
現在の学年終了時に目指す姿

これから6年間をともにする「友だち」となかよくするために、相手のことを決めつけるのではなく、コミュニケーションを通して相手のことをよく知ろうとすることができる。

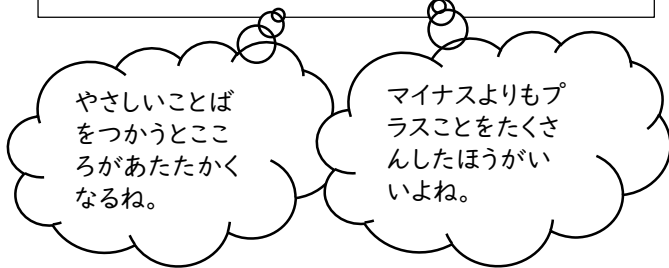


万博見学(春の遠足)

2025年に実施されている大阪・関西万博に参加する。施設を見学する中で世界中にたくさんの国があることを知るとともに、そこにはさまざまな人々がいることを理解する。またそこで働く人や会場に訪れている人達がコミュニケーションをとる姿を見て、どんな人でもコミュニケーションを自分から図ることで楽しい雰囲気づくりにつながることを体感させたい。



学級活動「ストローク」



国語科「おかしばなしをたのしもう」

昔話に親しみ、おもしろいと思ったところを紹介し合う。そのなかで、みんなが一番知っている物語に着目する。



学級活動「しん『ももたろう』ものがたり」

○主に養いたいESDの資質・能力
コミュニケーションを行う力
暴力ではない方法で解決するために、友だちの意見も受け入れながら互いの意見を伝えあう。
批判的に考える力(Critical Thinking)
相手に対して「〇〇である」「〇〇なはず」というような決めつけをしていないか考える。
○主に育てたいESDの価値観
人権・文化を尊重する。(文化多様性の尊重)
いろいろな立場や文化を受け入れ、その人を大切にする。
幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。
仲間のことをたくさん話しあって、知っていくことでより仲を深めることができる。

道徳科「がっこうに行くとき」
いろいろなルーツを持っていることに対して、相手のことを知ることによって尊重することができるようになる。

音楽科「世界に1つだけの花」
楽しみながら歌うとともに、歌詞の意味に気づくことができる。

生活科「もうすぐ2年生」
1年間の自分自身を振り返り、おもいおもいの「ももたろう」になれることはできたか、考える。
また、作ったお話について保護者の方に向けて発表する。

○あなたなら、なんとこたえますか。どんなきもちですか。こたえましょう。

① クラスのAさんと休みじかんにおにごっこをします。ルールをきめていたら…。



むかつく！もうあなたとは
あそばない！

Empty rounded rectangular box for writing a response to scenario 1.



② まい日、なにかをわすれているクラスのBさん。きょうも…。



ごめん！きょうも
きょうかしよみせて！

Empty rounded rectangular box for writing a response to scenario 2.



③ ほうかご、あそぶやくそくをしていたはずのCさんから…。



きょうは、あなたとは
あそばない！

Empty rounded rectangular box for writing a response to scenario 3.

